

好評の『てにをは辞典シリーズ』第二弾！

約60,000の俳句・短歌が

キーワードで引けて、比べて味わえる。

詩心を刺激する日本語表現辞典。



てにをは 俳句・短歌辞典

阿部 正子 編

つ【排 句】あ
いさつの一息おほし後の月 落花
あいさつはうちの風でしまひけり千代
よるこす大の雨にて世移 暁しやてます
と厄難にあいせつされて居る 最晩秋の輝
け合へる日傘かな 通学 挨拶や嵐の中より出る
露 露石 小憩しわたのあ申の秋風し 子猫 時
雨つ大徳女言葉交しゆく 鹿子 雲に霞と我が翼
を揺る挨拶 三〇 横閉つ雀の 〇は美しく しづ
子 輪を描くは去る挨拶の群 雀人 さいお天
京の言葉かけあってゆく 山陽火 わが辞や古道
で中瀬の子行きに 〇のれに声かく 歳友友
話 〇あしゆ【握手】形跡へ重なるぬくに
の短ふり挨拶 さかえ 生別や父
願の手振り含みあさし【八】露冷えの
雁手に指の無い手出す 夢【八】いく
たの道徳の後に響ゆるるの晩年の思
きを喚くる 佐藤一祥【八】 いとまこい【歌】原のは
たやまの笑ひかいとまこい 一家 出代りやきのふからいふとま
こい 大抵 鮎流くて道敷にもつたむとまこい 秀野 老僧に道敷をも
らふ歌を 子猫 かなかなの鳴いて顔を申しけり 五月 坐を立ちてとま申せば
夕日さす立木にと影の顔まつ 阿部 いや【礼】 礼云て出れば朝は背かき 井月
炎天の道に置く字が額にわれひそかなれて語る 韻木の子 今日までの会釈とど
得ておはたの人に礼言ふ心すなはに 島田尺草【八】えしやく【会釈】ふたごの会釈こぼ
るいやあより 大抵 はつ露や見しぬ人に会釈する 香履 会釈して行や牡丹の露さき
井月 録本をとって会釈や大抵 清原女 会釈は夜夜明の人はまね 水巴 学業の
会釈便しく露社業 久な マスより会釈あふれて女医やせし 葉【八】門火燃く人に会釈

ハーモニーを
味わって
みませんか？

心にひびく歌六万を
江戸から昭和まで
有名・無名を問わず採録。
相通う詩情や歌語で分類した
1ページ単位で「読む」辞典。
ひとつ上の表現をめざす
「歌詠み」のための辞典。

三省堂

てにをは俳句・短歌辞典

阿部正子 [編]

B6判 1,120ページ 定価(3,200円+税) ISBN 978-4-385-13642-4

- 相通う詩情や歌語で分類した1ページ単位で「読む」辞典。
かつ、キーワードで引ける、ひとつ上の表現をめざす「歌詠み」のための表現辞典。現代語見出しで、引きやすく、初心者にも優しいふりがな付き。
- 心にひびく歌60,000を江戸から昭和まで、有名・無名を問わず採録。同じテーマの歌が一堂に並ぶので、江戸と現代を一緒に、また俳句と短歌を一緒に読み比べることができ、贅沢な鑑賞体験が楽しめる。
- 無名のハンセン病患者の歌や、昭和人には懐かしい暮らしの歌も収録。
今まで知らなかった作者や新鮮な表現と出逢える、「読みごたえのある辞典」。

【編者紹介】

阿部正子 (あべ・まさこ、筆名・小暮正子)

1951年生まれ。編集者。農薬やがん治療・障がい者・薬害エイズ・誕生死等の単行本や『てにをは辞典』『敬語のお辞典』『十七季』『五七語辞典』『ことばの花』『夢みる昭和語』等を編集(以上、三省堂)。共編で佛淵健悟・小暮正子編『俳句・短歌・川柳と共に味わう 猫の国語辞典』(三省堂)。

三省堂

子育てこそだ

おきてくる(こ)起きて来る子

永き夜や起きた子をもの忍び声 嘯山こ
 短夜を乳呑児のさの独り起居おきたる 四辻
 風鈴に起きて寝さめのよき子かな 淡路女
 赤ん坊生れて朝へ起きてきた子 一石路
 朝寒に起きて耐へるにちぎめる子 久女
 白木権ちげ夢より起きて来し子かな 馬相
 つと起しし児が金魚の死骸つかみたり 山頭火
 うまいより醒めて話をしはじめむが 斎藤茂吉
 子等見つつ心ゆらぐも 斎藤茂吉
 朝風や兎さか熊のやうにして起き上る子
 のつけひもを吹く 与謝野晶子
 さ夜なかに茶をいれて居るしづこころ寝
 よと思ふに起きる子かも 釈道空
おしやべりする(こ)お喋りする子
 入学した子の能弁のうをきいてをり 碧梧桐
 亡き児あはれいづも素直に寝さめては眼ま
 こつぶらにひとり語りし 古泉千樞
 をさな子は十筆くのはかまむきながら学
 校の事をはなしかけたり 岡麓
 泥足を洗はせながら捕りにがしし魚のふ
 とさを子は語るなり 中島哀浪
 子どもらのはれ言ここそうれしけれ寂し
 き時に我は笑ふも 島木赤彦
こにみせる(子)に見せる
 初雪やふところ子にも見する母 杉風こ
 故里るさの小庭の華みれ子に見せむ 久女
 木戸さしに出て子の螢拾ひけり 木歩
 たもとから独楽ま出して児こに廻して見せ

のかどに寂しくし聞きゆ
 すかされて泣きとまりし幼子おきき母の
 顔見て又しぐれけり 石樽千亦
 泣きやまぬ子をすかし兼ねわが見やる雁来
 紅がらうはいや紅あきかも 岡本かの子
 夜もすがら負おひみ抱いだき泣ける子を守も
 りぬる人と朝寝す吾れも 宇津野研
だたをこねる(こ)駄々をこねる子
 あのをとつてくれろと泣き子哉 一茶
 負わつた子がだ、をこねるや田草取 一茶
 七草をたをた、きたがりて泣子かな 俊似こ
 太箸をばを児のほしがるや膝のうへ 井月
 もの言へぬいやいやをして春日中 しづ子
 母としか湯には入らずと子は云へりひとり
 ひたれり梅の豊み見て 北原白秋
 憤る裸の子なれ地面にたに寝て陽にはまぶ

わめく子をつくづくと見る 岡本かの子
 夜もすがら児は叫び泣くさんざんに母が生
 命の音を喰ふと泣き泣く 今井邦子
ねびまざる
 掃帚子やねびまざりたる話振をせり 草城
 紅梅を折りて挿はまればねびまざる 虚子
 彼方あちにて父はねねと人に告ぐ智恵の
 覚めゆく児もつあはれ 小名木綱夫
はつこ(這う子)
 鳥打はなうや子が這ひ歩くし原 一茶
 小こむしろに這習はなう子や花の蔭 多代こ
 板の間に子の這はいか、西瓜哉 使帆こ
 麦の秋ほこりの中を這ふ子かな 菊雅こ
 ひと向きに這ふ子おもふや笹ちまき 龍之介
 尻立てて這ふ子おもふや笹ちまき 龍之介
 這うてゆく児のさきにある手毬まかな 泊月

みせにくる(見せ)に来る子
 ころんだを児の見せに来る寒さ哉 多代こ
 百合を得て驕これる裸形童子はたかしかな 古郷
 秋燕しんを掌てに拾ひ来ぬ螢が子は風作
 啼きひく蟬を裸子より受けとる 多佳子
 支給されし手花火ではな十とおほど見せに吾
 子也 春水こ
 華はやかに縞ある魚を手にもちて秋の磯よ
 り走はせくる童 与謝野晶子
 鳴く蟬を手握たぎりもちてその頭をりをり
 見つつ童ちま走はせ来る 窪田空穂
むすがる(こ)むすがる子
 子供むつがる秋の夕暮 琴安こ
 縫ふ肩をゆすりてすねる子豊さかな 久女
 病める児のむつがる朝の食卓よ旅をおもひ

このきげん(子)の機嫌

はいくとも馬牽かかせて子の機嫌 木髪こ
 うどり子この機嫌直りぬ宵なづな 古友こ
 みどひ子や嬉しき和子この朝機嫌 多少こ
 熱下かりて蜜柑むく子の機嫌よく 久女
 肌寒や妻の機嫌子の機嫌 草城
 風鈴や一泣きをさしたる児の機嫌 淡路女
 ちんぼこに西瓜の牽しぐたらして子の機嫌 裸木
 水中花病む子の機嫌なほりけり 竹声こ
 何か云ひ抛ほうり出だせし人形を乳のみ了お
 へてまた抱きにゆく 小名木綱夫
このてをひく(子)の手を引く
 金魚買つて子の手を曳いて帰りけり 淡路女
 をさなこの手をとり歩む道のへにみそさざ
 い飛び日は暮れむとす 古泉千樞
 父母ちんぼに手をは引かれてうれしきか此の
 子は足をあげつ、ぞゆく 太田水穂
こをあそばせる(子)を遊ばせる
 麦秋や子供遊ばす舟の中 泊月
 落葉掻かき児は日溜むをりに遊ばせて 放雲
 ず、だま冷えく溜む児が遊べり 泊月
 雨の日のこととあそぶ太鼓を打ち太鼓こ
 ろばし 一碧楼
 鶴を折る間に眠る児や宵の春 放哉
 豆を時まく諏訪さまに午を遊ばせて 米子こ
 蟬しぐれしつかにかよふ昼蘭なけて子と組
 み立つる名古屋屋の型 北原白秋
 線路こえてわが稚児をををあそばしむをさ

な兒ときき坂きほひくたる

朝庭をきれいに掃きぬはだして歩みそめ
 たる子をあそばしむ 中島哀浪
 日ぐれまで児を遊ばする山かげの紫雲英
 田げ貸だのうへ月淡うあり 中村憲吉
 すべきことある縁えに 窪田空穂
 この春は何か老いぬく吾がころ末の這
 ふ子をあそばせてをり 宇津野研
 わが清に友を与へん犬の子と鶏と鳩と七面
 鳥と 水野葉舟
 夜が来れば妻は勤めにいでてゆきわは子
 のため積木はじめ 横山石鳥こ
こをあやす(子)をあやす
 転んだ子ちんぼい御宝おんちん 江戸雑俳
 居ないくばアと顔出す団扇うち哉 麦人
 秋の空高いくををする子哉 麦人
 むつかれば海に抱きゆきてほうらく 枡童
 かあゆてならぬ子を空たかくさしあげる 山頭火
 声だけで泣く子をあやす農繁期 欣声こ
 さらばとてむづかる吾子をあやしつづく 明石海人
こをすかす(子)を賺す
 あれさけと鳴子をならして子守哉 諷竹こ
 三月月や泣く子をすかす縁えの端は 湖峯こ
 手にあけて泣く子にみせる海鼠を 多代こ
 髪結はぬ児輩とをすかすちまきかな 可有こ
 泣く児きにあれの、様上蝙蝠うりよ、小波
 あと追ひて泣く子を賺す野分かな 万太郎
 いきどほり泣く子をすかす妻のこゑゆふべ

る子

な一茶
 一茶
 青陽人
 は夢も
 合直文
 ことに寝
 くだ直文
 合直文
 左千夫
 左千夫
 左千夫
 左千夫

『てにをは辞典』 小内一 [編] 定価(本体3,800円+税) B6判 1,824頁 ISBN 978-4-385-13646-2

『てにをは連想表現辞典』 小内一 [編] 定価(本体 3,200円+税) B6判 1,312頁 ISBN 978-4-385-13641-7

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9412(営業) <https://www.sanseido.co.jp/>

注文書	NEW てにをは俳句・短歌辞典	てにをは辞典	てにをは連想表現辞典	貴店名・帖合先
	ISBN 978-4-385-13642-4 定価(本体3,200円+税)	ISBN 978-4-385-13646-2 定価(本体3,800円+税)	ISBN 978-4-385-13641-7 定価(本体 3,200円+税)	
	お名前	お電話番号		
	ご住所 〒			三省堂

※必要事項をご記入のうえ、最寄りの書店へお申し込み下さい。お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。